

長浜市公共施設マネジメント推進委員会（第6回）
東近江市現地視察について（報告）

- 1 期 日 平成27年10月16日（金）13：00出発～17：20帰着
- 2 現地視察先 及び説明者 ①東近江市役所永源寺支所政所出張所
東近江市永源寺支所政所出張所 栗田所長
②東近江市役所永源寺支所
東近江市永源寺支所 渋谷支所長・東近江市役所企画課 瀧澤課長
③東近江市役所（本庁舎）
東近江市役所企画課 瀧澤課長
- 3 視 察 者 石井委員長（①、②）、大谷委員、中村委員、有木委員、山田委員、
河原林委員、青山委員、國友委員、中嶋委員（委員計9名）
事務局3名

4 視察内容

① 東近江市永源寺支所政所出張所

- ・政所支所は、元は中学校の校舎でH16.3に閉校した。奥永源寺の中学生は、現在、スクールバスで永源寺中学校に通っている。
- ・旧中学校の跡地利用として、別地にあり古くなっていた所政所出張所の機能をこの地に移転することになり、H19.7にコミュニティセンターとして開設した。
- ・コミュニティセンター開設時は、出張所機能、市民サロン、出張診療所、調理室及びデイサービス、ランチルームが置かれていたが、民間のデイサービスは、2、3年で撤退された。年々利用者が減少した結果、採算が合わなくなったためとの理由。
- ・デイサービスの部屋が空いてしまった後の施設活用策検討ということもあり、国道421号の石樽（いしぐれ）トンネル開通前に、庁内で奥永源寺振興計画を策定する中で、「道の駅」を活用して地域振興を行っていくこととなった。今では道の駅第2ステージ、地域の拠点化が言われているが、計画当時、旧の建物を複合施設として道の駅にしていこうという例はなく、先行事例として国に後押ししていただいた。
- ・政所出張所は、三重県側から石樽トンネルを抜けて最初の公共施設である。八日市インターのほか、蒲生スマートインター、湖東三山スマートインターも整備されており、国道421号が単なる通過交通にならぬよう検討していく必要があった。当時、この施設をドライバーに信頼感のあるブランドの「道の駅」に位置づけ、市の情報発信も行う場とすることで少しでも市内の滞在時間を増やすことにつなげたいという思いがあった。

- ・道の駅の機能としては、別紙（A3）の①～③の休憩機能、情報発信機能、地域連携機能があればよいが、加えて④～⑦の防災安全、医療、行政、コミュニティセンターの各機能を有する施設として計画し、昨年11月に登録を受けた。デイサービスをやっていた部屋は、現在、物販と情報発信に活用されている。
- ・出張所は、1日数件利用される程度であるが、市内の周辺部である奥永源寺地域にとっては、なくてはならない施設と考えており、また、ダムから奥は雨が多いと通行止めになるという状況等も踏まえ、防災の地域拠点、避難場所という役割を持たせた。
- ・全長約4.5kmの国道421号の石樽トンネルがH23.3に開通したことにより、三重県のいなべ市、桑名市や八日市市までも行きやすくなった。そのため、奥永源寺地域の住民は、トンネル開通後、日用品の買出し等、三重県側へ出かける人が多くなり生活圏が変わった。それだけでなく、トンネルができたことで、市内の方もこの地域に関心を持ってくれるようになった。
- ・10月10日のオープンから3日間で27,600人の来訪、その後も毎日1,000人が訪れている。（※現地視察日はオープンから7日目）

【質問】

- ・支所の職員数と運営協議会の詳細を説明いただきたい。
 - 市の正規職員は1名、月14日出勤の嘱託職員が1名の計2名、今はオープンの関係があったので、本庁観光物産課から1名、支所から1名の応援職員が来ている。
 - 運営協議会は、物販と情報発信をしていただくための組織で、JA、商工会議所にも入ってもらって今年2月に立ち上げた。
 - ここは支所や診療所があるため、市が適切な維持管理をしていかなければならず、すべてを渡すことができないため、第三セクターは設立していない。市が物販をできればよいが、それはできないので、市が運営経費を協議会に支払う方法を取っている。
- ・道の駅の手数料収入はどうなるのか。
 - 運営協議会の収入で、人件費に充てる。ただし、コンビニに出店を依頼しても採算が取れないとして断られた場所でもあり、正直、黒字化は難しいと考えている。
 - 利益がなくても、地域の生活を支えていかなければならないし、収益を上げていく方法を、みんなで気づいてみんなで考えていこうということでスタートした。
 - 実際、他の場所の方がよいのではないかという意見もあったが、ここは地域振興を兼ねた場所と考えている。
 - 物販は100㎡程度で規模はコンビニと変わらないが、地域を支えるという意味で、特産品だけでなく日用品も置いている。また、奥永源寺は木地師発祥の地であることから地元の木地師の作品を置いたり、いずれは鈴鹿山脈の登山者のための基地としての機能を持たせたいということで登山用品を置いたりしている。

② 東近江市役所永源寺支所

- ・元々は永源寺町産業会館として建設されたもの。合併後に、この建物の向かい側にあった前の永源寺支所が古くなったので、平成 23 年度にその機能をここに移転した。前の永源寺支所は解体済である。
- ・支所をここに移転する際、元々あった商工会は移転してもらっている。合併後にケーブルテレビになったので、有線放送設備は不要となった。元からあるのは J A だけで、建物は J A との合築、区分所有になっている。
- ・この建物は平成 6 年建築で 20 年近くが経過している。当時の永源寺町の人口規模は 7,000 人程度で大きな町ではなく、J A と商工会、有線放送、町が集まれば、かなりのことが決まるような状況であった。そこで、この 3 団体を一堂に集め、情報を共有して、調整をしやすいように、というのが元々の発想である。この 20 年の間に、市だけでなく J A も合併している。商工会については、ここのほかに商工会館を所有されている。経営上のこともあり、支所が入る代わりに、商工会館に戻っていただいた。
- ・建物は J A との合築で、J A も建設費を負担されている。1 km ほど離れた場所にコミュニティセンターがあったが、こちらに入っていただくという話になり、コミュニティセンターを運営されているまちづくり協議会が施設全体の管理を行っている。ホールや会議室の貸館業務もまちづくり協議会で行っている。
- ・元々、J A と商工会、有線放送の 3 団体の事務所が入ることが前提で建てられたので、セキュリティは別々で、入口も両側に配置され、事務所が完全に独立した形の配置になっている。当時は、配置に余裕もあったが、後々のことを考えると、良い構造になっていた。

【質問】

- ・支所の職員数と機能を説明いただきたい。
 - 正規職員 11 名、嘱託職員 3 名の計 14 名である。
主な業務はいわゆる窓口、戸籍・住其・税金の諸証明の発行と収納、介護保険、障がい者・高齢者等の福祉、まちづくりの一部を担っている地域振興の 3 つ。

③ 東近江市役所（本庁舎）

- ・東近江市役所企画課の瀧澤課長から、本庁舎新館について、外観から若干の説明をいただいた後、10 分程度の時間を取り、各自、市役所内を見学した。

① 東近江市永源寺支所政所出張所



永源寺支所政所出張所・道の駅奥永源寺溪流の里・鈴鹿の里コミュニティセンターが併設された施設の外観



旧中学校の教室をそのまま利用し、道の駅のオープンイベントとして小学校関係の展示がされていた。

当日は、その部屋で説明を受けた。



道の駅 情報展示の一部



道の駅 物販施設



出張所は、旧中学校の来客者用玄関を入った元の職員室にある。

② 東近江市役所永源寺支所



永源寺コミュニティセンター外観。写真右側にJ A支店、左側の奥に支所が配置されている。



支所執務室



コミュニティセンターの機能移転に伴い、改修されたもみじホール



コミュニティセンターの機能移転に伴い、増築された研修棟

③東近江市役所（本庁舎）



東近江市役所の本庁舎新館の外観